

# 岡山県感染症週報

2012 年 第 32 週 (8 月 6 日～8 月 12 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

## ◆2012 年 第 32 週 (8/6～8/12) の感染症発生動向 (届出数)

## ■全数把握感染症の発生状況

第 30 週 2 類感染症 結核 7 名 (20 代 男 1 名、50 代 男 1 名、60 代 男 1 名、70 代 女 1 名、80 代 男 2 名、90 代 女 1 名)

第 31 週 2 類感染症 結核 1 名 (80 代 男)

5 類感染症 後天性免疫不全症候群 1 名 (40 代 男)

第 32 週 2 類感染症 結核 4 名 (20 代 女 3 名、30 代 女 1 名)

3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 87 名 (O111: 30 代 男 1 名、O157: 幼児 女 1 名、O26: 幼児 男 42 名・女 31 名、10 代 男 1 名、20 代 女 3 名、30 代 女 3 名、40 代 男 1 名・女 2 名、50 代 女 1 名、60 代 女 1 名)

## ■定点把握感染症の発生状況

- ヘルパンギーナは、2 週つづけて減少しました。
- RS ウイルス感染症の県内での発生は少数ですが、全国では増加傾向です。

## 【速報 第 33 週】

- 腸管出血性大腸菌 O26 感染症 8 名の発生がありました。(幼児 男 1 名・女 1 名、10 代 女 1 名、20 代 女 1 名、30 代 女 2 名、40 代 女 1 名、50 代 女 1 名)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、2012 年は 8 月 15 日までに 127 名、8 月の発生は 105 名になりました。岡山県では 8 月 7 日、**「腸管出血性大腸菌感染症警報」**を県下全域に発令し、より一層の注意を呼びかけています。症状や予防法など、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症警報 発令中!](#)』をご覧ください。  
また、倉敷市の 3 保育園で発生した腸管出血性大腸菌 O26 感染症における感染者数は、8 月 15 日までに 104 名 (園児 83 名、職員 7 名、接触者 14 名) に増加しました。倉敷市の専門家会議では、今回の集団発生は、何らかの食を介して園内に持ち込まれ、二次汚染により拡大した可能性が高いと考えられていますが、ひきつづき原因・感染経路については調査中です。  
腸管出血性大腸菌感染症は、微量の菌により感染するため、食品の取り扱いには十分に注意して、食中毒の発生予防を徹底するとともに、手洗いの励行など、ヒトからヒトへの二次感染には十分注意する必要があります。
2. **ヘルパンギーナ**の定点あたり患者数は、第 30 週をピークに 2 週つづけて減少しました (定点あたり 2.13 → 1.67 人)。例年 9～10 月頃まで流行がみられますので、今後も県内の発生状況に注意するとともに、感染予防に努めて下さい。詳しい発生状況などは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. **RSウイルス感染症**の定点あたり患者数は、岡山県では少数にとどまっていますが、全国統計では増加傾向です。発生状況など詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
4. **風しん**は、2012 年、岡山県ではこれまでに 5 名の届出がありました。  
全国では、8 月 2 日～8 日の一週間に 99 名増加し、2012 年 8 月 8 日までの累計報告数は 1,016 名になりました。近畿地方 (特に大阪府、兵庫県) ・関東地方 (特に東京都、神奈川県) で増加がつづいており、今後の動向に注意が必要です。

(全国風しん発生動向調査 [国立感染症研究 HP](#)、[岡山県感染症情報センター HP](#))

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓		RSウイルス感染症	↑	★
咽頭結膜熱	↓	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	→	★
手足口病	↓	★	伝染性紅斑	→	★
突発性発疹	→	★★	百日咳	↓	
ヘルパンギーナ	↓	★★	流行性耳下腺炎	→	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	→	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	↑	★★
マイコプラズマ肺炎	↓	★	クラミジア肺炎	↓	

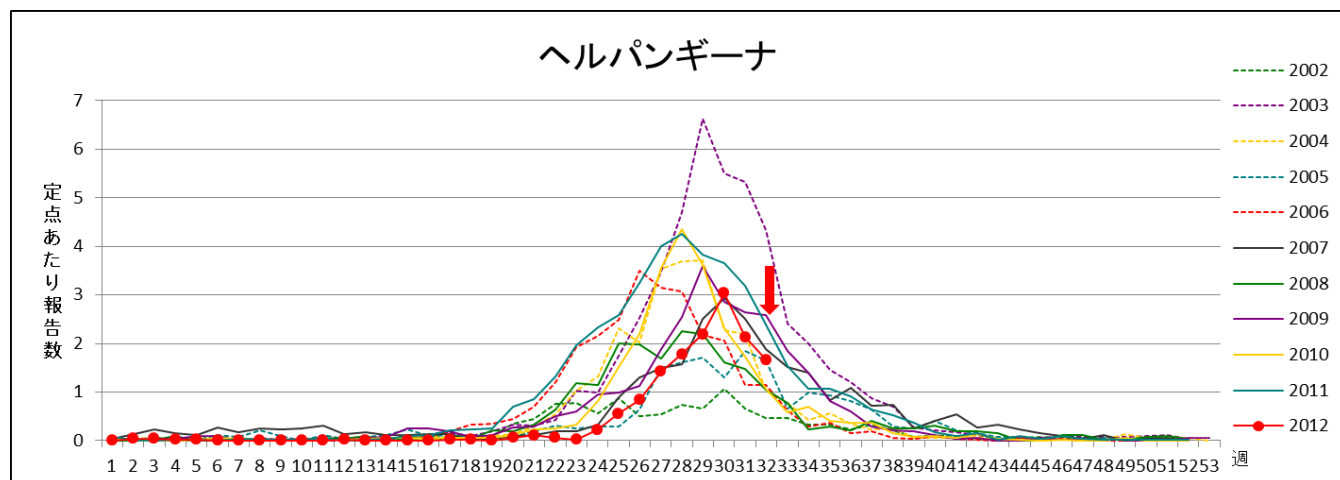
### 【記号の説明】

前週からの推移： ↓ : 2 倍以上の減少      ↓ : 1.1～2 倍未満の減少      → : 1.1 未満の増減  
                          ↑ : 1.1～2 倍未満の増加      ↑ : 2 倍以上の増加

発生状況： 空白：発生なし   ★：僅か   ★★：少し   ★★★：やや多い   ★★★★：多い   ★★★★★：非常に多い  
 ※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

## 今週の注目感染症

### 1. ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナの定点あたり患者報告数は、第30週をピークに2週つづけて減少しました（定点あたり2.13 → 1.67人）。県内全域で患者は減少傾向です。年齢別では0～3歳の乳幼児が全体の約67%を占め、5歳以下が患者の中心です。例年、9月～10月頃まで流行が見られる感染症ですので、今後も手洗いを行うなど感染予防に努めて下さい。

### 【ヘルパンギーナとは】

夏に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表疾患です。突然の発熱につづいて咽頭痛が出現し、口腔内に直径1～2mmの赤い小水疱が多数出現するのが特徴です。通常2～4日で軽快し、予後は良好な疾患ですが、発熱時に熱性けいれんや髄膜炎を伴うことがあります。口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、乳幼児では食べ物や水分が取りにくくなり、脱水症につながる場合がありますので注意が必要です。

## 2. RS ウイルス感染症

RS ウイルス感染症が全国では増加傾向です。

RS ウイルス感染症は、例年冬（11 月～1 月）に流行が見られる急性呼吸器感染症です。2011 年は例年ならば低い水準で推移する 7 月頃から患者増加が認められ、これまでとは異なる動向を示し、大きな流行になりました。

2012 年も昨年と同様の傾向がみられ、例年よりも早い、夏からの患者増加が懸念されます。

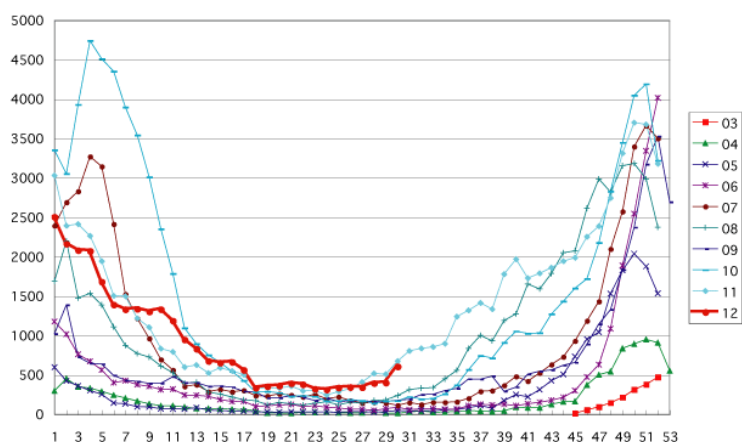
岡山県では、患者は少数（定点あたり 0.04 人）にとどまっているものの、第 31 週全国集計によると、近隣の広島県（0.39 人）、香川県（0.20 人）などでは増加傾向です。

RS ウイルス感染症は重篤性や合併症から、特に乳幼児においては極めて重篤な感染症です。乳幼児にしばしば肺炎や細気管支炎を発症し、生後 6 ヶ月以下の乳幼児においては重症化し、入院を必要とすることもあります。

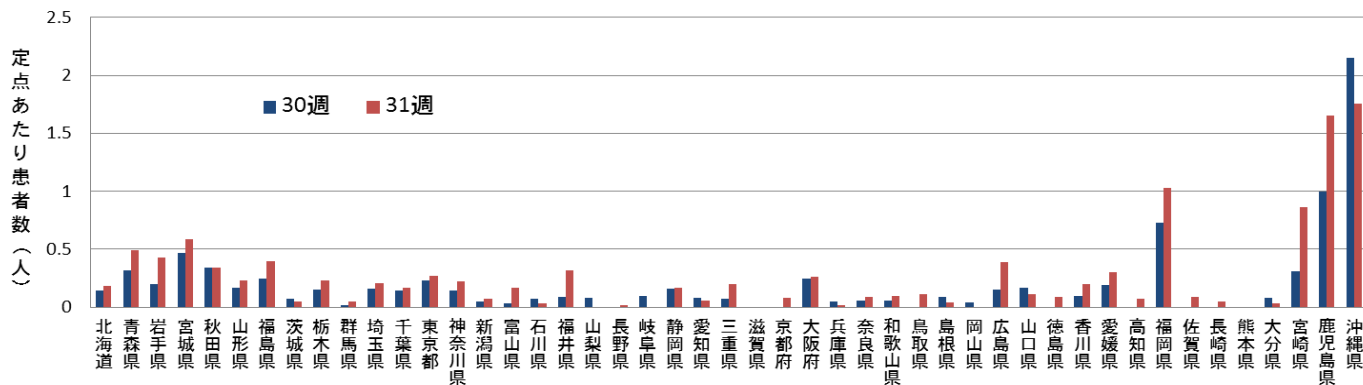
（[国立感染症研究所「RS ウイルス感染症とは」](#)）

全国の RS ウイルス感染症 過去 10 年間との比較グラフ

（国立感染症研究所 第 31 週週報より）



RSウイルス感染症 全国発生状況



保健所別報告患者数 2012年 32週 ( 2012/08/06～2012/08/12 )

2012年8月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	2	0.04	—	—	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	9	0.17	5	0.36	1	0.09	—	—	1	0.14	2	0.50	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	0.30	3	0.21	1	0.09	1	0.10	6	0.86	—	—	3	1.50	2	0.33
感染性胃腸炎	222	4.11	30	2.14	60	5.45	54	5.40	14	2.00	18	4.50	7	3.50	39	6.50
水痘	36	0.67	13	0.93	9	0.82	—	—	6	0.86	—	—	2	1.00	6	1.00
手足口病	19	0.35	6	0.43	6	0.55	4	0.40	2	0.29	—	—	1	0.50	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	31	0.57	15	1.07	5	0.45	8	0.80	2	0.29	—	—	1	0.50	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	90	1.67	37	2.64	18	1.64	8	0.80	8	1.14	6	1.50	3	1.50	10	1.67
流行性耳下腺炎	22	0.41	6	0.43	5	0.45	9	0.90	2	0.29	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	9	0.75	3	0.60	5	1.25	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

( — : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2012年 32週 ( 2012/08/06～2012/08/12 )

2012年8月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	9	0.17	5	0.36	1	0.09	—	—	1	0.14	2	0.50	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	0.30	3	0.21	1	0.09	1	0.10	6	0.86	—	—	3	1.50	2	0.33
感染性胃腸炎	222	4.11	30	2.14	60	5.45	54	5.40	14	2.00	18	4.50	7	3.50	39	6.50
水痘	36	0.67	13	0.93	9	0.82	—	—	6	0.86	—	—	2	1.00	6	1.00
手足口病	19	0.35	6	0.43	6	0.55	4	0.40	2	0.29	—	—	1	0.50	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	90	1.67	37	2.64	18	1.64	8	0.80	8	1.14	6	1.50	3	1.50	10	1.67
流行性耳下腺炎	22	0.41	6	0.43	5	0.45	9	0.90	2	0.29	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	9	0.75	3	0.60	5	1.25	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2012年 第32週 2012/08/06～2012/08/12 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	2	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	9	—	—	2	—	1	2	—	1	1	—	—	1	—	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	—	1	1	2	3	2	2	1	—	—	1	2	—	1
感染性胃腸炎	222	2	21	33	24	19	21	20	15	9	5	9	18	6	20
水痘	36	3	2	7	4	6	7	3	1	—	—	1	2	—	—
手足口病	19	—	1	4	3	2	3	2	3	—	—	—	1	—	—
伝染性紅斑	3	—	—	—	1	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	31	1	13	15	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	90	—	5	31	17	7	7	10	4	4	—	1	1	—	3
流行性耳下腺炎	22	—	—	1	1	5	3	5	2	1	—	—	2	1	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	1	1	1	3

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

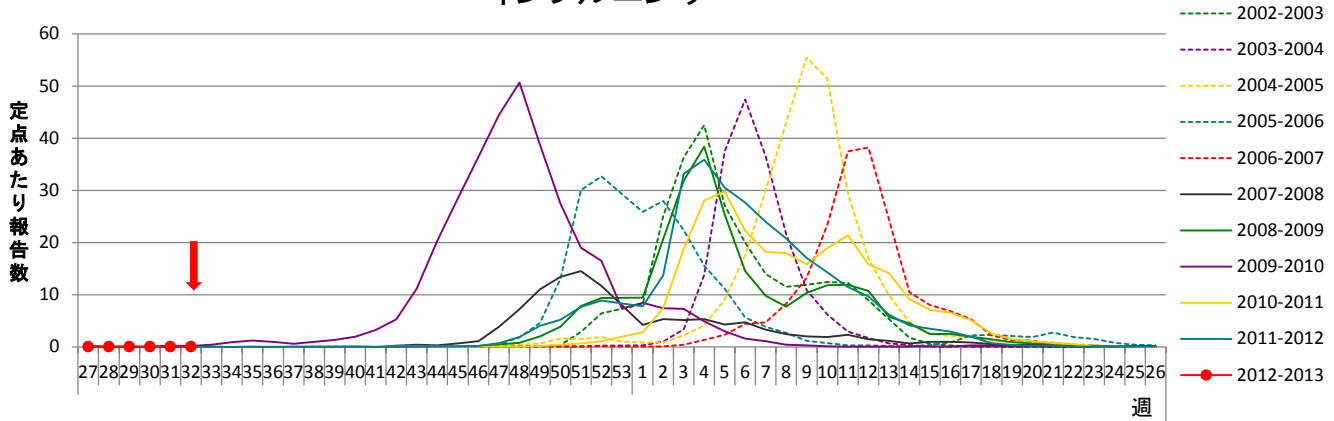
( - : 0 )

# 全数把握 感染症患者発生状況

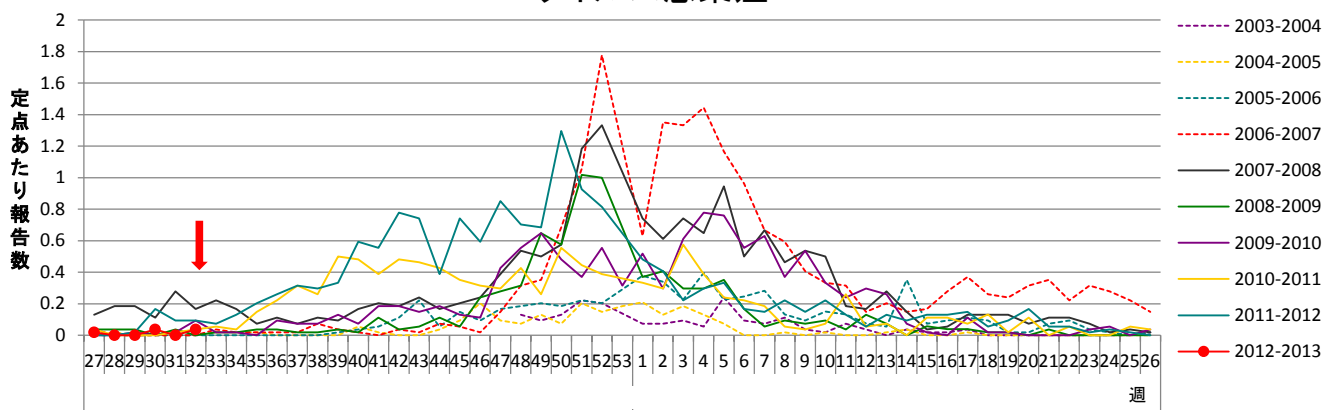
2012 年 32 週

分類	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	4	278	557	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	87	119	67
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	3
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	1	3	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	1
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	13	37	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	9	11	ウイルス性肝炎*3	-	4	9	急性脳炎*4	-	1	3
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	11	15	ジアルジア症	-	1	2	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	4	9	破傷風	-	1	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	-	風しん	-	5	1
	麻しん	-	6	4		-	-	-		-	-	-

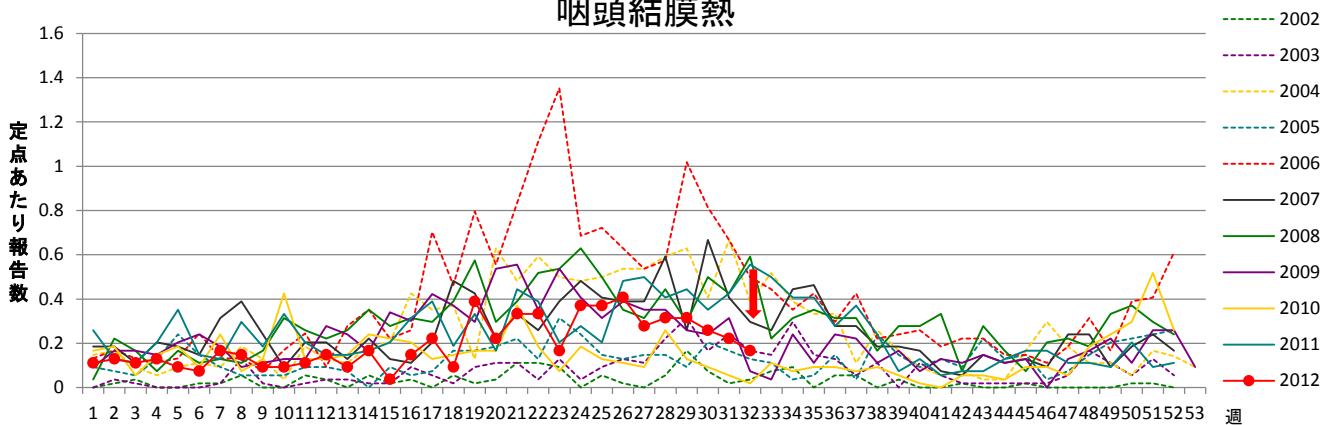
## インフルエンザ



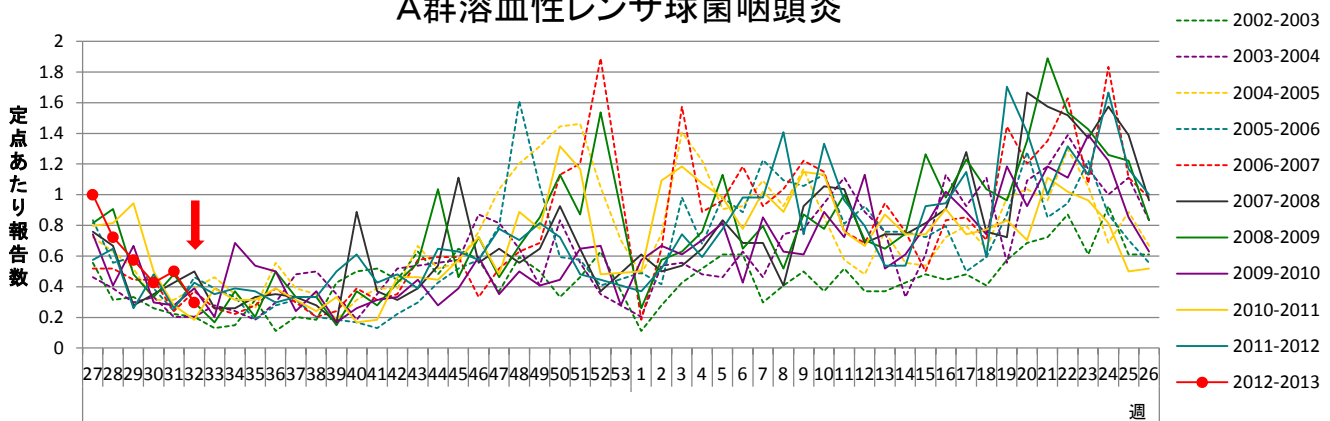
## RSウイルス感染症



## 咽頭結膜熱

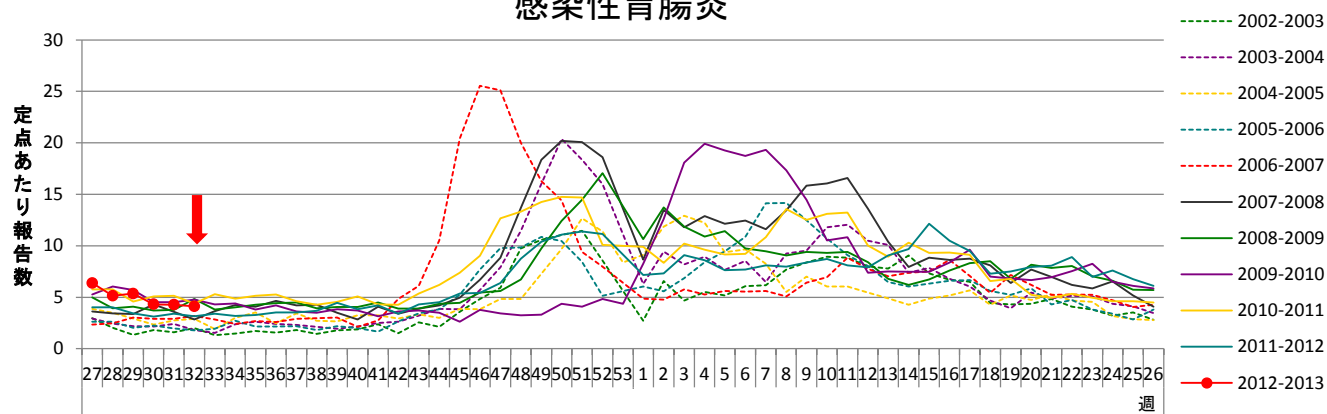


## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

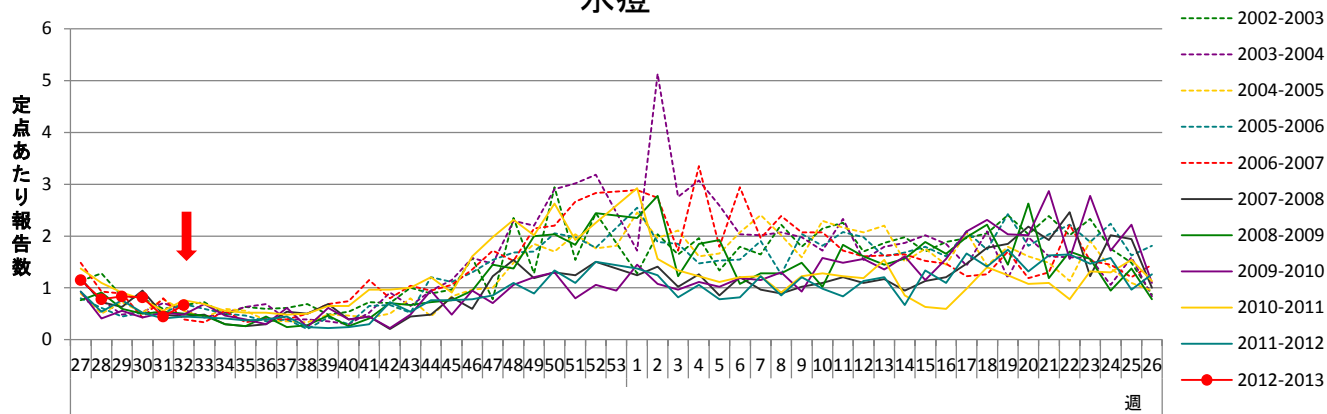




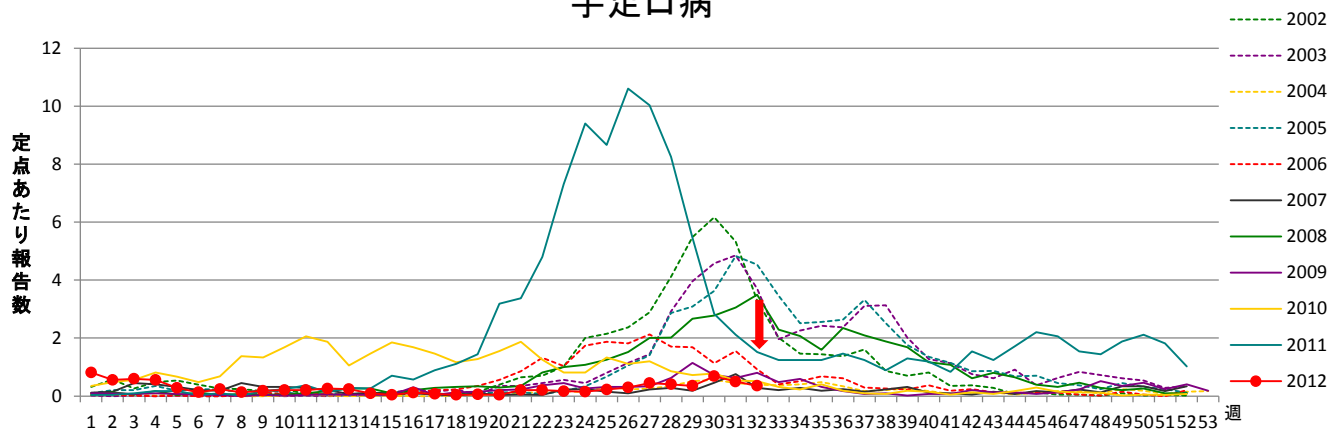
## 感染性胃腸炎



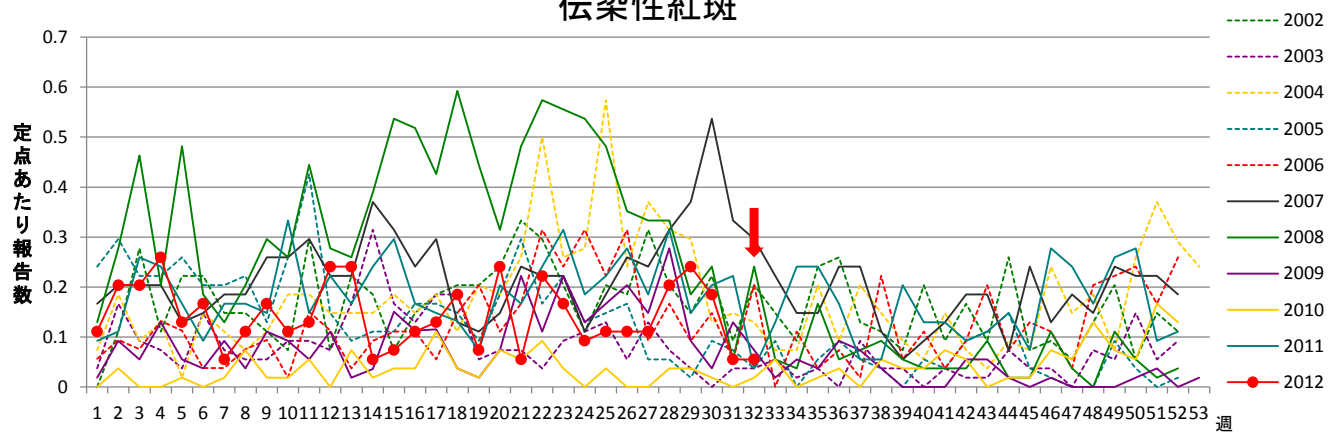
## 水痘



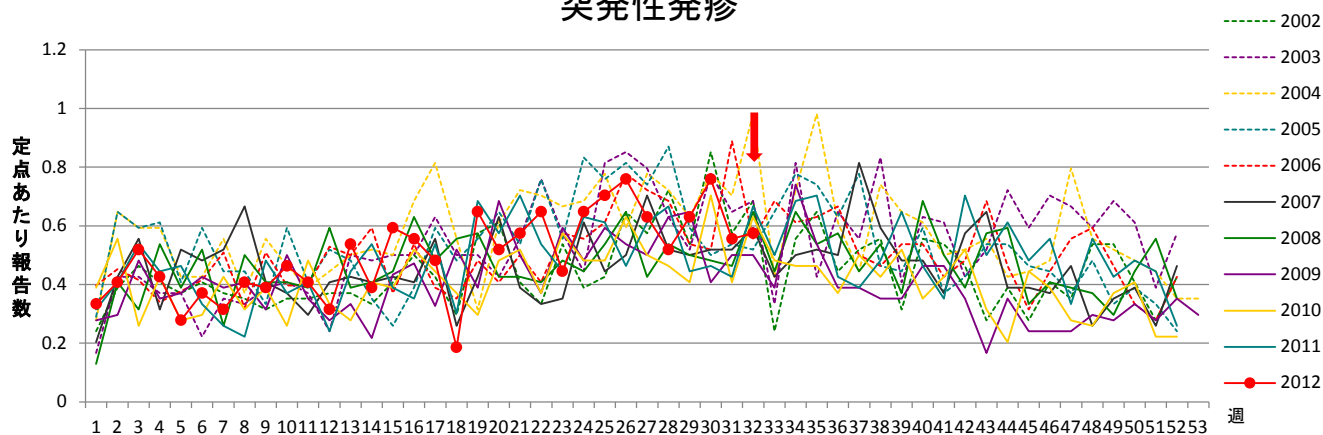
## 手足口病



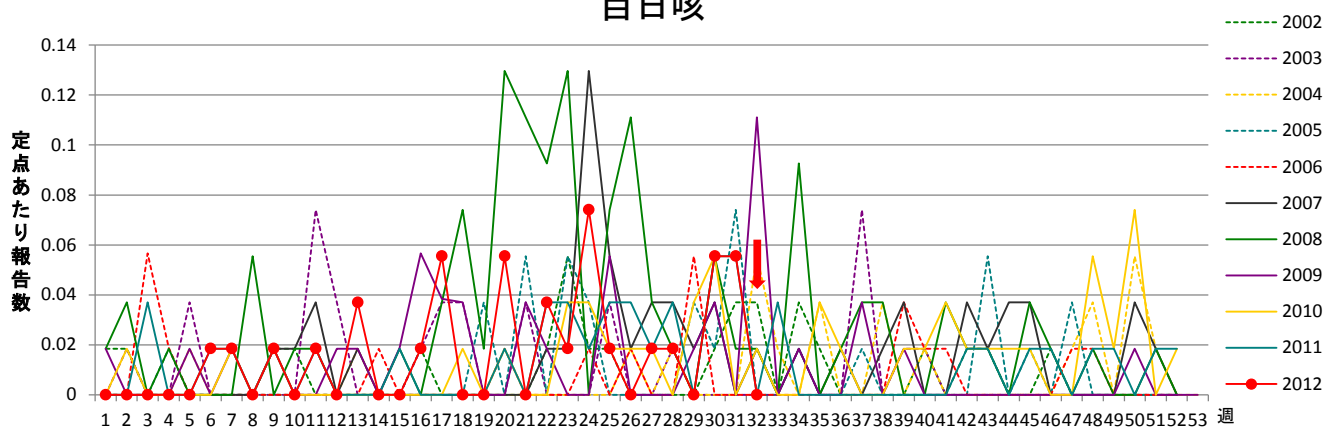
## 伝染性紅斑



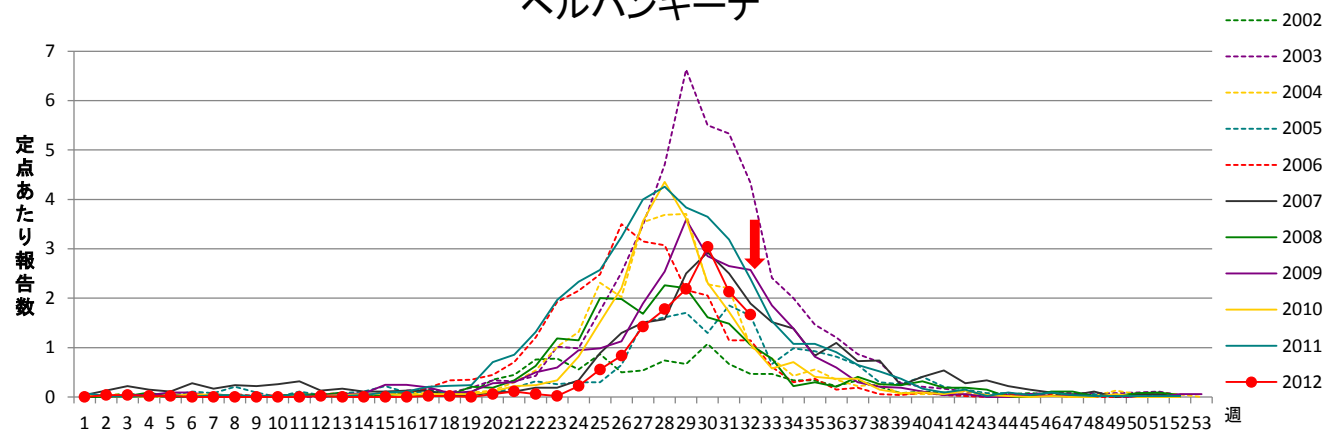
### 突発性発疹



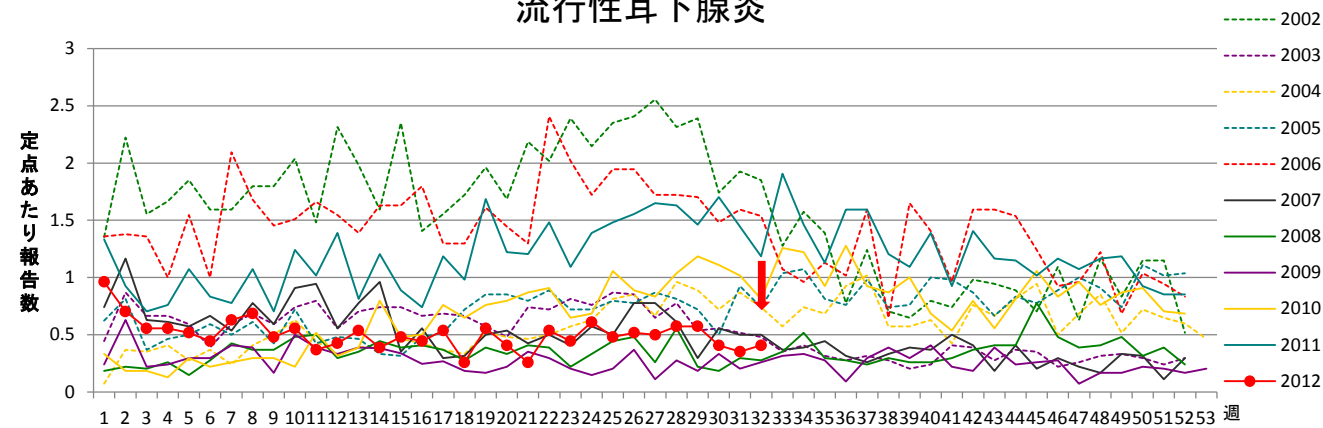
### 百日咳



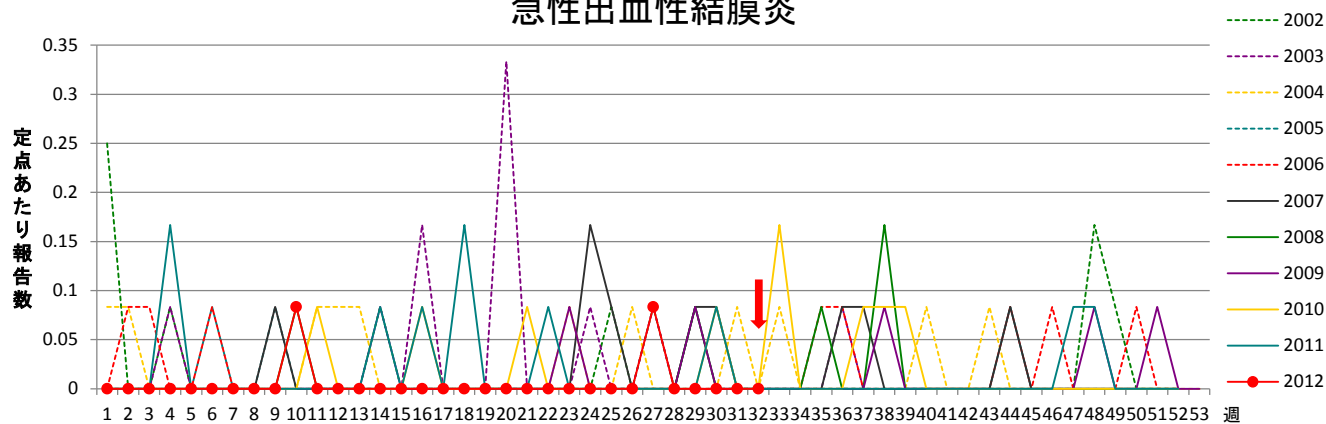
### ヘルパンギーナ



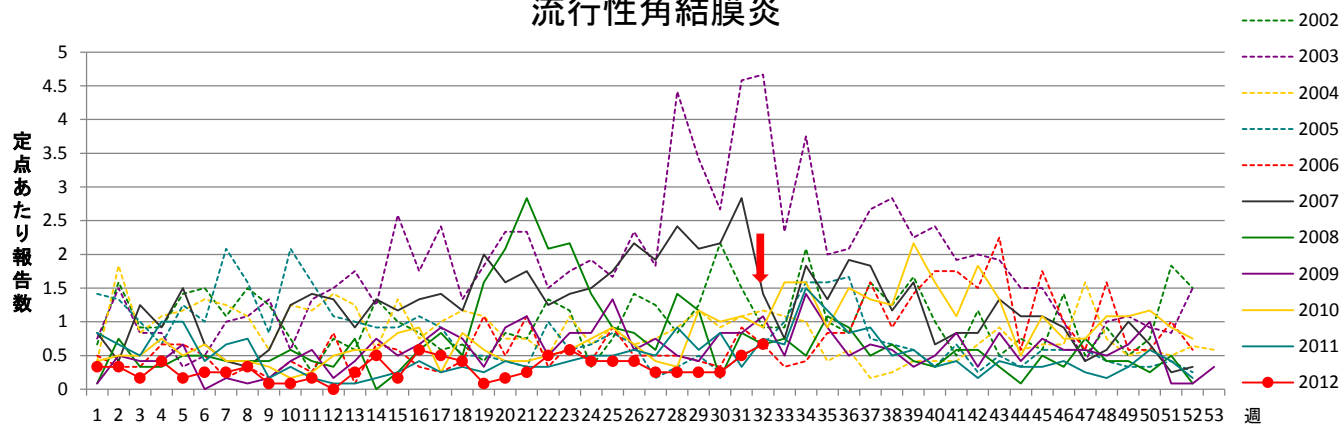
### 流行性耳下腺炎



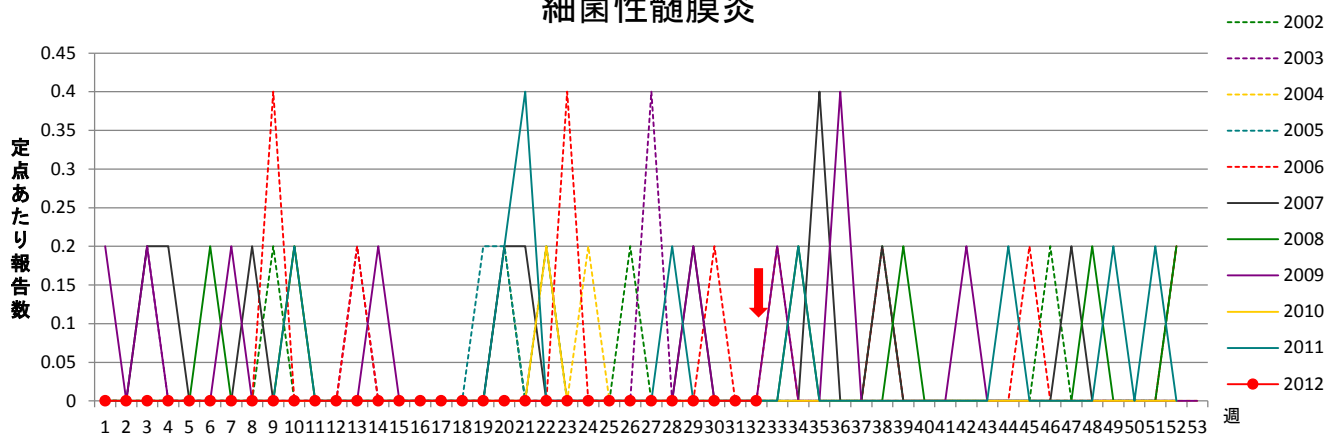
### 急性出血性結膜炎



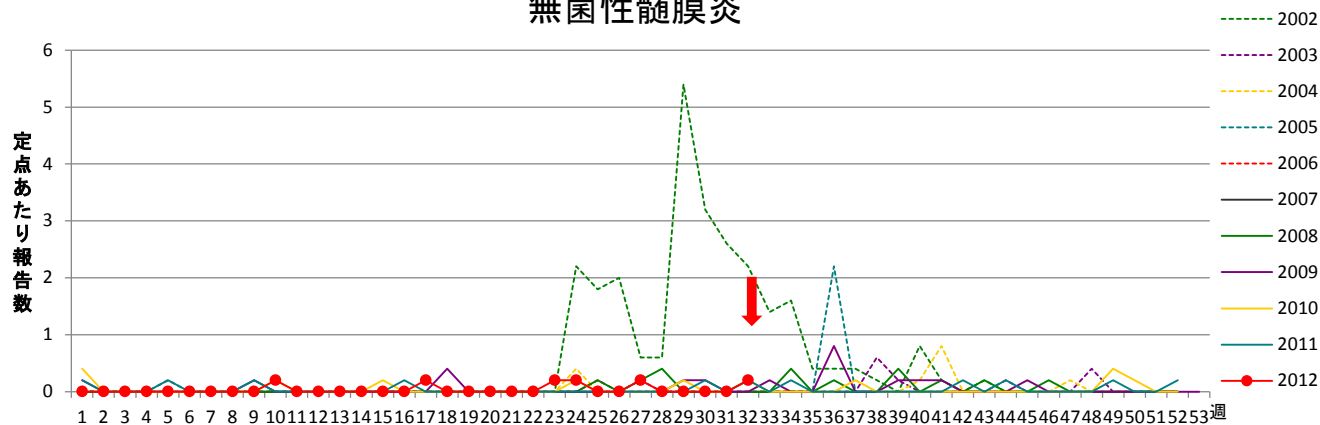
### 流行性角結膜炎



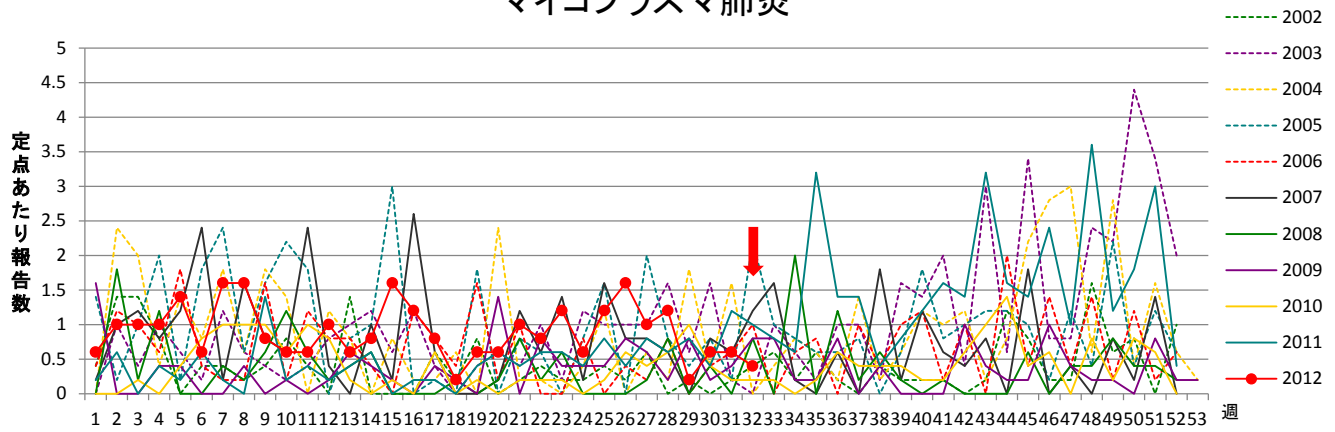
### 細菌性髄膜炎



### 無菌性髄膜炎



## マイコプラズマ肺炎



## クラミジア肺炎

